

6年生の実践（2年次 6月3日）

本時の視点

価値に関わる自分たちの行動について振り返らせた後、「自由とは、〇〇〇」と価値について考えさせることにより、事前のイメージとの変容に気づき、価値理解を深めることができるであろう。

1. **主題名** 自由に必要なもの（A 善悪の判断、自律、自由と責任）

2. ねらいと資料

（ねらい） 自由で規律ある考えや行動のよさに気づき、自分で考え判断したことに責任を持ち、自由を大切にしようとする心情を育てる。

（資料名） 「頂上はすぐそこに」

（出典 文溪堂 「6年生の道徳」）

3. 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、学習指導要領の内容「A 主として自分自身に関する事」の「善悪の判断、自律、自由と責任」における第5学年及び第6学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」を受けて設定されたものである。これは、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を大切にすることに関する内容項目である。これは、第1学年及び第2学年の「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」、第3学年及び第4学年の「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」を受けたものであり、さらに、中学校の「自立の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」へ発展していく。

自己を高めていくには、何ものにもとらわれない自由な考えや行動が大切である。自由には、自分で自律的に判断し、行動したことによる自己責任が伴うものである。しかし、この時期の児童は、自由のとらえ違いをし、自分勝手な振る舞いをしてしまうことがある。自由という名のもとに自分のことだけを考えて行動するのではなく、人と関わり合う中で周りの人のことも考えて自分を律することが大切であることに気づき、責任をもって主体的に行動できる態度を育てたい。また、そのことは、本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながるものと考えられる。

（2）児童観（児童数30名）

自由には自律性や責任が必要であることを理解させるために、次の指導を行ってきた。

国語「カレーライス」の単元では、父親との約束を破ってゲームを続けていた主人公の心情を考えさせることにより、子どもたちは、自律心がないと、つい人の心は自分勝手な方向に流されてしまうことを理解できた。

社会「縄文のむらから古墳のくにへ」では、狩猟生活をしていた縄文時代の人々は、獲物をみんなで分け、人々は平等に暮らしてきたが、米づくりが始まると、計画的な栽培が求められることから指導者が生まれ、やがてはくに同士の戦いに発展してきたことを学習した。子どもたちは、自律により人々の生活が営まれることの難しさを実感することができた。

家庭科「私の仕事と生活時間」では、生活時間を計画的に使うと、家庭の仕事をしたり、家族と共

に過ごしたりする時間を増やせることを学習した。子どもたちは、自分たちの生活時間を調べる活動を通して、宿題を後回しにしてしまったり、親の見ていない場面でつついゲームをしてしまうという行動をしている自分に気づき、自律心の大切さを実感することができた。

このように、様々な活動を通して自律心や責任の大切さを考えてきたが、自由に振る舞うためには、自律心や責任が必要であることへの理解は正直薄い。

例えば、自由についてのイメージを自由に記述させたところ、かなり画一的な見方をしていたことがわかった。「自分の好きなことができる」と答えた児童が26名（約9割）で、次に多い答えも「好き勝手にできる」（6名）となっており、そこには「自律」を意識したイメージはほとんど感じられない。感情について書いている児童も数人いたが、「楽しい」「うれしい」「幸せ」がそれぞれ2名ずつと、自己決定できることを嬉しく思っていることがわかる。一方で「自分で判断する」「自分ですべての責任を持つ」と答えた児童が1人ずつおり、少数ではあるが自由に伴う自己責任の大きさについて考えている児童もいることがわかった。

本学級のほとんどの児童は、自由について「好きなことをしてもよい」と、楽なイメージを持っている。そこで本時では、自分で決断するとき、自分の感情をコントロールすることのよさと難しさを考えさせながら、価値の深化を図っていきたい。

（3）資料観

「頂上はすぐそこに」は、主人公が進むべきか戻るべきかを考え、結局撤退を決意するが、その後は後ろを振り返ることなく下山する姿が描かれている。

そこで、この部分を中心発問とし、「自由」には「自分の好き勝手に行動すること」だけでなく、「自分で決断する」ことも含まれるという価値理解を深めさせたい。同時に、「気持ちいい」「うれしい」だけでなく、時には辛い思いを伴う場合があることにも気づかせたい。また、ここに至るまでに、「遭難の危険があるから無理はできない」とわかっているが、「それでも長年の夢は実現させたい」と思う、人間理解を深める発問も取り入れたい。

4. 指導方針

〈研究主題に迫るために〉

- 自分の思いや考えを的確に表現し、発表できるように、学び合いを積極的に授業に取り入れるとともに、温かい学級づくりに努める。
- 自分の成長や課題に気づかせるために、自分の考えや行動を振り返り、日記などで表現させる活動を定期的・継続的に取り入れる。

〈事前〉

- 修学旅行のグループ活動計画を話し合わせる際、自由と規律について意識させておく。
- 価値についての関心を高めるため、あらかじめ「自由」に対するイメージを考えさせておく。
- 自分の考えを交流することのよさを実感させるため、日頃からペア学習、班活動を学びの場に意図的・積極的に取り入れる。

〈本時〉

【課題をつかむ】

- 資料がやや長い上に、登山の世界は児童にイメージしにくいと思われるので、事前に読み物資料を与え、事前に読ませておく。
- 主人公の登山家の心情を自分事として捉えさせるため、主な主人公の行動に対してどれだけ共感するかを、国語の物語教材で活用した共感度として百分率で表現させる。

【価値を追求する】

- 自分の共感度の移り変わりを基に、主人公の心情を考えさせるために、折り目のついたワークシートを用意する。
- 資料後段で、価値に関わる主人公の心情をより深く考えられるように、吹き出し形式のワークシートを用意する。
- 価値にかかわる主人公の心情を類型化するため、机間巡視により児童の思いや考えを分類し、意図的な指名につなげる。
- 主人公の清々しさの陰には自分で決断した行為があることを理解させるため、それが不十分だと判断したときには、他者からの指示により撤回した場合の、主人公の心情を考えさせる。

【価値を内面的に自覚する】

- 自律的に行動できた自分を実感し、実践への意欲化を図るため、児童の日記の中から、「自律的に行動できた場面」を意図的に紹介する。
- 「自由」に対する授業前のイメージがどれだけ変容したかを児童に実感させるため、事前のワークシートの傾向を知らせるとともに、一人一人に配布し、手元に置かせる。

〈事後〉

- 自分たちの成果を確認し、価値に対するさらなる意欲化を図るために、修学旅行で「自律的に行動できたこと」について話し合わせ、結果を教室に掲示する。

5. 本時の学習

(1) ねらい

自由で規律ある考えや行動のよさに気づき、自分で考え判断したことに責任をもち、自由を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備 教師：読み物資料，ワークシート，場面絵

児童：筆記用具，日記帳

(3) 学習指導課程

過程	学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点(・) 評価(◆)
課題をつかむ	1. 「自由」という言葉のイメージについて想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人から何も言われず、自分のしたいことをする。 ・自分の好き勝手にできる。 	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に課題として出した日記帳を用意させ、様々なイメージがあることを確認させる。
価値を追求する	2. 資料「頂上はすぐそこに」を読み、主人公の心情等について話し合う。 (1) 主人公がいつも単独行動をとる理由を確認する。(この人は、どうしていつも1人で行動していたのでしょうか。)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ行動ではどうしても自由が制限されるから。 ・自分の本当にやりたいことができないから。 <p>【他者理解・人間理解】</p>	27	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの日常生活とややかけ離れた資料であるため、事前配布し、読んでおくよう指示する。また、少しでも自分事と捉えさせるため、主人公の行動について、共感できるかどうか確認させる。 ・「常に自由でいたい」主人公の心情を確実に押さえておく。 ・自分の気持ちに忠実に行動したいという主人公の心情に共感さ

	<p>(2) 夢にまで見た美しい頂を見て迷っていた「私」の気持ちを考える。(迷っているこの人の心の声を考えましょう。)</p> <p>(3) 自分の行動を決断し、山を下りる主人公の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 後ろを振り返らずに山を下りる「私」の気持ちを書きましよう。 </div> <p>☆どうして振り返らなかったんだろうね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やっとチャンスが来た。なんとしても登りたい。 ・ 二度とチャンスは無いかもしれない。今なら行けるぞ。 ・ 多くの人に迷惑をかけてしまうかもしれないなあ。 <p>【価値理解・人間理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残念だが仕方ない。多くの人に迷惑をかけるわけにはいかない。 ・ 自分で決めたことだ。後悔しないぞ。 ・ まだ、チャンスは来るはず。それまで、またがんばろう。 <p>【価値理解・他者理解】</p>	分	<p>せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「なんとか長年の夢を実現させたい」、「遭難の危機があるから無理はできない」の二つの思いが交錯することを板書を整理し、理解させたい。 ・ 机間巡視を生かした意図的な指名をし、代表的な意見が全体に伝わるようにする。 ・ 後ろを振り返らないことから、自分の決断に迷い無く（または未練を断ち切ろうと）行動していることを押さえる。 <p>◆ 後ろを振り返らずに下山する主人公に共感することを通して、自分の決断に決然と従おうとするよさについて考えを深めることができたか。</p> <p>(発表, ワークシート)</p>
価値を内面的に自覚する	<p>3. 価値に関わる自分たちの行動について振り返る。(自分たちの生活の中で、自分のことを自分で決めてよかったなあ、と思ったことを思い出しましょう。)</p> <p>4. 本時を振り返り、自由について改めて考える。(自由について、イメージが変わったことがあったら、書きましよう。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親がいないとき、ゲームをやりたい気持ちはあったが、自分で決めて宿題をした。なんだか嬉しかった。 ・ マラソン練習を自分でやるって決めたからがんばることができた。 <p>【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由は好き勝手にやっていいわけではないとわかった。 ・ 自由には自律が必要だと思うようになった。 <p>【価値理解】</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な場面を提示し、振り返りをしやすくする。自分の生活を振り返る中で、自由の意味を考え直せるようにしたい。 ・ 自分の取った行動だけでなく、そのときの気持ちも思い出させ、価値の自覚を図りたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめをし、児童が価値について十分理解を深めることができるようにする。 <p>◆ 自由について改めて振り返り、自由には自律や責任が必要であることを理解できたか。</p> <p>(発表, ワークシート)</p>

6. 資料分析図

ね ら い：自由で規律ある考えや行動のよさに気付き、自分で考え判断したことに責任をもち、自由を大切にしようとする心情を育てる。

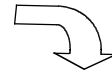
授業の意図：自由とは好き勝手に行動することだけでなく、自分で考えたことに責任をもつことも必要であるということを理解するために、自分の夢と周囲への迷惑を秤にかけ大いに迷うが、最後には自分の夢をあきらめ、下山する主人公の心情を考えさせ、本当の自由の意味（価値理解）と、自律の難しさ（人間理解）についても考えさせる。

中心発問：後ろを振り返らずに山を下りる「私」の気持ちを書きましょう。

意 図：主人公はさんざん悩んだ末に下山するが、そのときの態度から、自分で決断したこと重さを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

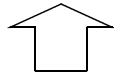


発問：どうして振り返らなかったんだろうね。

意図：後ろを振り返らない行為に着目させることにより、主人公の心情に迫らせる。

価値理解

他者理解

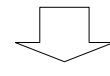


発問：あこがれの山を前に、挑戦しようかあきらめようか迷っているこの人の、心の声を考えましょう。

意図：夢にまで見た美しい頂を見て迷っている主人公の気持ちを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

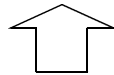
人間理解



発問：自分たちの生活の中で、自分のことを自分で決めてよかったなあ、と思ったことを思い出しましょう。

意図：自由が許される場面で自律的に振るまったことについて想起させる。

自己理解



発問：この人は、どうしていつも1人で行動していたのでしょうか。

意図：常に単独行動を取ってきた主人公の気持ちを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

発問：自由について、イメージが変わったことがあったら、書きましょう。

意図：自由の意味について、自分との関わりで考えさせる。

価値理解

7. 授業記録（T：教師 C：児童）

T：後ろを振り返らずに山を下りる「私」の気持ちを書きましょう。（中心発問）

教師が「後ろを振り返らずには、こんな感じかな。」と動作化してから、児童にワークシートを書かせた。

C 1：自分で決めたのだから、いさぎよく引き返そう。

T：似ている人はいるかな。

C 2：自分の決断に悔いはない。登るのをあきらめよう。

T：ほかのパターンは、あるかな。

C 3：このまま登ると、仲間に迷惑をかけてしまう。

C 4：ここで振り返ったら、迷いが出ちゃう。もう一度、登りたくなってしまう。

C 5：あの霧が出なければ、頂上に行けたのに・・・。

C 6：また、次回チャレンジしよう。挑戦はまたいつでもできるから。

T：たくさん思いがあるんだね。たくさんあるんだけど、いくつかに分けられそうだね。
－中略－

児童と交流しながら、次の4つに類型化した。

①迷いを断ち切る ②自分の決断、悔いはない ③次への期待 ④未来へのやる気

T：もし、トランシーバーで「帰ってきて。」と言われたら、同じ気持ちになるかな。

C 7：ならない。

C 8：人に言われると悔しい気持ちになるんじゃないかな。

全員：絶対、そうだと思う。

T：自由について、授業の最初に聞いたよね。今日の授業を終えてどんなイメージになりましたか。「自由とは」に続けて書きましょう。

C 9：自由とは、「自分で決めること。決意すること。」だと思う。

C 10：自由とは、「自分で決断し、実行できること。」じゃないかな。

C 9：そうだね。「楽じゃない。」っていうことは分かった。

T：今日学んだ「自由」について、明日からの生活の中でも考えていってほしいと思います。



【じっくり考えを書く児童】



